



## 巻頭言

会長 川村 くに



今年も残すところ一ヵ月足らず。新しい世紀が目前に待っています。「失われた十年」と言われるバブル崩壊後の日本にとって光輝く世紀が到来することを願っています。

会長職をお引きうけて早や一年半が過ぎました。微力ながらここまで頑張ってきたのも、会員の皆様の温かいお励ましとご支援によるものと、深く感謝しております。今年には会員にとって悲しい事がありました。会員の川嶋妙香様が9月に亡くなられました。4月には奈良ゾンタクラブの10周年記念式典にお元気で出席なさいましたのに。温厚で思慮深い素晴らしい方を失って残念でなりません。又11月には辻康子会員のご尊父元関西経済連合会会長の宇野收様が他界されました。宇野様には私達のクラブはいろいろとお世話になりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

今年もゾンタの目標である「誠実と奉仕」「女性の地位向上」に基づき奉仕活動を推進するため今期始めに合同委員会を開いて、いろいろ協議しました。そして10月1日にチャリティーイベントとして「講演とコンサートのつどい」を開催しました。講演は「乗り物酔いと宇宙酔いの熱い関係— NASAでの実験に参加して」の演題で耳鼻咽喉科で宇宙医学実験センター所属の肥塚泉先生のお話を興味深く聞いてから新進気鋭のピアニスト中村勝樹氏のピアノソナタを聴きました。定期的に来てくださるお客様もでき、近隣のゾンシャンも多数お越しいただいて、盛会裡に終わることが出来ました。2月3日(土)には、毎年行っている「女性と健康シ

リーズ」講演会を催す予定です。今年の演題は「心臓病について」講師は関西医科大学の岩坂壽二教授をお迎えする予定です。卓話を11月にZISVAWに関して島本郁子先生にお願いしました。世界にはとてもひどい、想像を絶する不幸な女性がいる事に憤りさえ覚えました。私達のクラブもZISVAW基金に寄付をして、支援しています。1月の例会は、アメリカイアハートデイです。会員の西村博子さんが勉強して卓話をして下さいます。今期のエリアミーティング(2001年5月12日)は私達のクラブがホスト役をおおせつかっています。どうすればエリア4の皆様のお役に立てるか、そして実りある会がもてるかと頑張っております。どうか会員の皆様の若いパワーでご支援下さいますよう、お願いいたします。(2000年11月末日脱稿)



川嶋妙香様を偲んで

徳光 正子



いつもファッションブルに法衣を着こなし、素敵でやさしい笑顔で接して下さった妙香さん。余りにも早すぎた突然のご逝去に、今でもまだ信じられずにおります。とてもお忙しい方でしたのに、あなたを思い出すと、愛くるしい目で、おだやかに、にこにこ

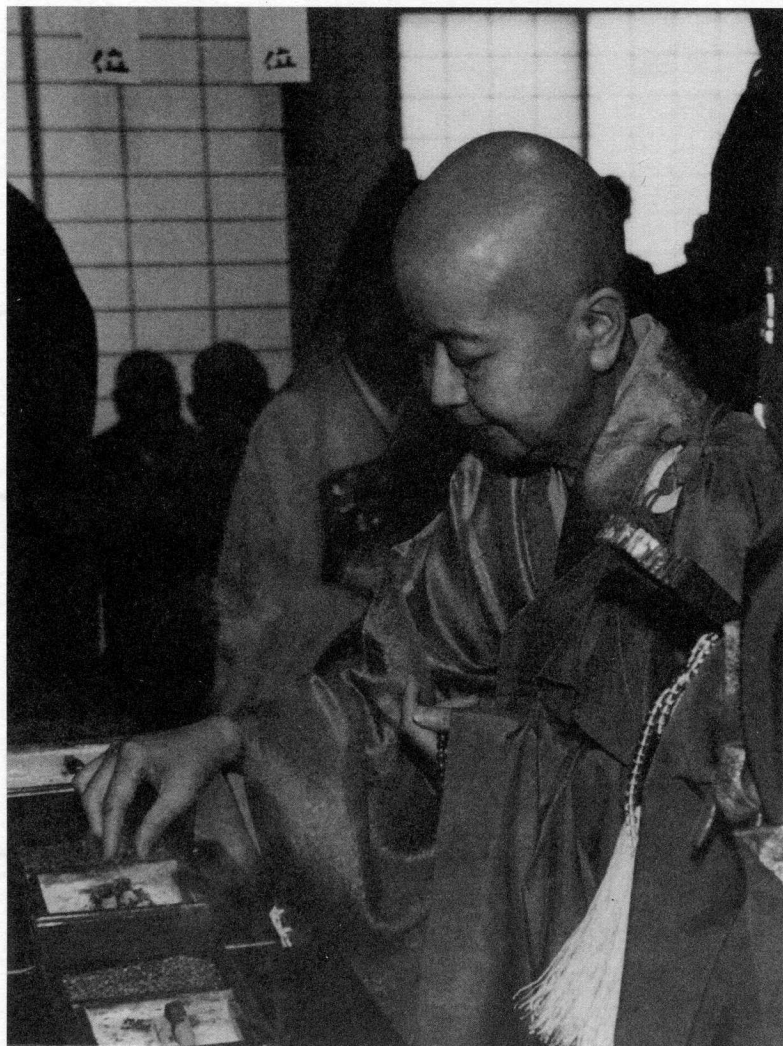
笑っておられる姿しか浮かんで参りません。ご葬儀に参列させて頂いて、改めて、あなたのお人柄はもちろんのこと、偉大なるお働き、尊いお仕事に感銘を受け、存在の大きさと共に多くの方々の心の支え

となって、生き抜いて来られた人生に心から敬服いたしました。

ふり返ればほのぼのとした思い出ばかりがよみがえります。手造りのプレゼントを持ち寄り、施設の方とお茶をいただきながらお交わりを体験させてもらったこと。不慣れで、戸惑う私達に「先ず接していただくことが大切なのですよ」と優しくアドバイスしてくださいました。春には百丈山合掌会の見事な桜の下で、楽しいお花見パーティーにも参加させて頂きました。日頃は、お年寄りの方々との接点の少ない私達もスタッフの方やボランティアの方々に助けられて、お汁粉やタコ焼きなどお手伝いをさせていただく内に、いつの間にやら打ちとけて夢中になって遊ばせてもらいました。その折にも、お弁当やお箸袋の一つ一つに至るまで、細やかな心が行き届いていて、人様にお仕えすることの姿勢を教えられ感動を覚えました。又、私共の社員の親もご無理をお願いして施設にお世話になったことがございましたが、最後まで手厚くお心にかけて下さり心より感謝致しております。そんなご縁もあってか、確か合掌会様のお祝の席での司会のお役目を、場違いな私が仰せつかったのも、今となればなつかしい思い出でございます。

永年、透析を続けておられると伺っておりましたのに、そんなご様子はちっともお見せにならず、いつもテキパキとお仕事を進めておられました。本当にご自身のお身体を献げて、世のため人のために尽くされた尊い人生でございました。

忌明けに建仁寺にお参りさせていただき、母も、手厚いお供養がなされ、今さらながらお徳を偲ばせていただいたと申しております。ありがとうございました。合掌



川嶋妙香さんを偲ぶ

宮本 典子



妙香さんはわたしたちのクラブのチャーターの時から格別親しくして、またとてもお世話になったおひとりでした。

はじめは奉仕委員会で一緒に老人ホームでの介護とはどういふものか、お年寄りへの奉仕の心のようなものを実地に学ばせていただきました。百丈山のご自分の施設も、またお友達の施設もご案内いただきました。また私が会長の時には役員の一員として色々相談に乗っていただきました。バイマアヤンジンさんをはじめアジアの音楽留学生を紹介いただきコンサートをしたのを始め、移動例会ではお知り合いの清水寺をご案内いただき大僧正や奥様のおもてなしに預かり、桜のひとときを過ごすことが出来ました。これも日頃の妙香さんのお働きのお陰と思っています。

随分広くお仕事をなさっておられたのに、いつも控えめで、ご自分ではあまりおっしゃらないのですが、相談を持ちかけ

ると必ず的確に対処して下さる信頼できる友でありました。コンサートも清水の時もそうでした。毎週透析をつづけながらのお身体のことを気遣うと逆にいつも私のことを心配して下さいました。でも私はいつも妙香さんを失うおそれでいっぱい、手のひらの中で大事に大事にしていたのですけれど、あなたはとうとう、すり抜けていってしまわれた、あなたの笑顔はもうないと思うと悲しみでいっぱいです。おばあさまのおつくりになったというホームの施設長としてホームを守り、この困難な日々を細い肩で守って来られ、よくここまで頑張られたと敬意と悲しみでいっぱいです。どうかゆっくりお休み下さい。そして私達の大阪Ⅱズンタクラブを見守っててくださいね。



分の力だけで生きていくことはできないのであり、一切衆生の生命の力で生かされております。人間は共に社会生活を営み、お互いに助け合い、励まし合い、寄り合って、共存共榮し、向上していかなければなりません。人類だけでなく、山川草木雄大な自然とも調和・融合して、生きていくことを学ばなければなりません。西暦2000年を迎えるにあたっての自己の抱負と同胞への挨拶をかねたこの言葉が、妙香さんの遺戒となりました。

皆さんご承知のように、彼女は若くして高校時代に渡米され、昭和40年6月アメリカン大学国際政治学科を卒業されました。彼女の国際的なセンスと抜群の語学力の源はここに培われたのです。しかし向学の精神は止むことを知らず、軽費老人ホーム「合掌荘」の設立に参加した後、さらに同42年には渡欧して、西独、ノールウエー等で国際会議、展示会の通訳を勤める傍ら、1年間聴講生として名門フライブルグ大学の門を叩いておられます。その後、フランスに滞在して、ルルド（カトリックの聖地）の病院で奉仕活動を体験したのち帰国。期するところあって翌44年4月、千葉県・清澄寺にて得度されました。すぐさま尼僧として憧れのインドに渡り、ラジギールの寺院やマハトマ・ガンジー公のワルダ塾にて修学され仏教の研鑽を積まれました。深い仏教的土壌を持つ川嶋家と国際的に著名な藤井日達上人との出会いがここに実を結びます。昭和45年4月、帰国した妙香さんは、ついにパゴダの聳え建つ「百丈山合掌苑道場」の苑主に就任されたのでした。その後の活躍は目をみはるものがあり、福祉事業に宗教活動に東奔西走。持病の透析治療を続けながら、人にはこころのやすらぎを与え、共生きの道を実践された妙香さん。全力疾走して59年の人生を駆け抜けて行った妙香さん。貴方の優しいお姿と微笑みを、私達はとわに忘れないでしょう。 合掌



奈良10周年記念式典に参加された故川嶋さんと共に去る9月26日、川嶋妙香（富子）会員がお亡くなりになりました。私にとりまして妙香さんのご遷化は、仏門に帰依するものとして、また同じ仏舎利（お釈迦さまのご遺骨）をお祀りする数少ない宗教者として、誠に口惜しく残念でなりません。

本年5月21日、私のお寺の震災復興の式典一萩の寺本堂入仏落慶法要に参列していただき、齢百歳になられた大本山永平寺の宮崎奕保禅師さまのご垂示を、円い目をパッチリ開けて聞き入っておられたお姿が、今もなお鮮やかにまぶたに残っています。お戒名は百丈山秋月妙香尼。老人福祉事業に生涯を捧げると同時に社会的実践を伴った尼僧としての59年の充実したご生涯でした。今はただ心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。

表題は、昨年年頭の「合掌」（社会福祉法人「百丈山合掌会」機関紙）中に述べられているお言葉です。いわく―「私」個人という存在は、「衆生縁」によって生かされており、自分だけが自



ありし日の川嶋さんと、1999年忘年会



—意見が違って仲良く、連帯の輪を作ろう— —自分の意見を持ち、自分で考え、正しい行動をとろう—

2000年7月7日より13日迄、ハワイのオアフ島で開催された国際会議に参加し、有意義な時を過ごし、楽しい思い出をたくさん作る事ができました。しかし一方、胸のふさがる思いも経験、まさに『人生そのもの』でした。

出発前より、原ガバナー（当時）の除名問題が浮上。個人的には歯髄炎にかかり、ひどい疼痛と左顔面が腫脹し、一時は行けないものと諦めておりました。重い気分で、7日の最終のJALで日本を離れましたが、ハワイの明るい空と美しい海、椰子の木と可憐な花々に迎えられ、一息つきました。早速、会場のヒルトンプラザに行き、登録。登録用紙を握り締め不安で一杯の私達でしたが、京都の安田様、沖縄の大林様達が、受付をしておられ、本当に嬉しく思いました。大林会員は、私と同じく歯髄炎で右顔面を腫らしておられるにも拘わらず受付をなさっているのは、ゾンタの奉仕の精神に叶った素晴らしい行為だと感動しました。

原元ガバナーが、2000—2002年国際理事に、日本から初めて立候補されました。事前の所信表明演説も立派で他の候補者に比べて勝るとも劣らないものでしたが、390票（最下位）しか得られませんでした。最高得点が、フィリピンのオリヴィア・フェリーで、何と902票、当選最低票が588票なので、26地区がすべて原ガバナーに投票しても当選は不可能です。国際理事の敷居は、日本には、まだまだ高いものだと痛感しました。日本は寄付金額ではトップでありながら、1名も国際理事を出せないというのが現状です。今回の大会では、外

国のゾンシャンと広く交流を持つことができました。特にカンサスやアトランティックシティとは、お好み焼きや鉄板焼きを一緒にでき、楽しい時間を持ちました。これは、宮本会員の努力の賜物です。私は彼女達とは初対面でしたが、すぐに打ち解ける事ができました。これもゾンタという、共通の基盤のお陰です。彼女達は個性が豊かで、自分の意見を持ち、自分で考え、人生をエンジョイしていました。全員とても肥っていたけれど、『いい顔』をしている。大地に根をおろしている。こういう人達と友達になれるのは嬉しい事です。アロハパーティの後、ホテルの部屋のヴェランダでカンサスのシェレル夫妻（夫は内科医）をお招きして、川村、宮本会員とで、日米の医療事情などにつき意見交換等をしたのは、美しい海と共に私の心にハッピーな思い出として焼き付いています。



初めての世界大会

河村 さと子



私はゾンシャンになってから、まだ一年にもなっていないのですが、この世界大会の開催地がハワイであることに心が動き、いそいそと極く気軽にコンベンションに参加しました。しかし毎日密度の高い各プログラムに接しているうちに、いつしかその熱気にとり込まれ、当初目論んでいた半ば



物見遊山の気分も吹き飛んでしまい、私は毎日のエキサイティングなイベントやワークショップに夢中になっておりました。何が、そんなに私をワ

クワクさせたかと言いますと、音楽人としての私は常に1つのイベントをプロデューサーやプレーヤーの視点でその構成や進行を俯瞰（ふかん）観察する習慣がついていますので、今回のコンベンションの仕切られ方、運営、演出のされ方に非常に興味を抱いたからです。

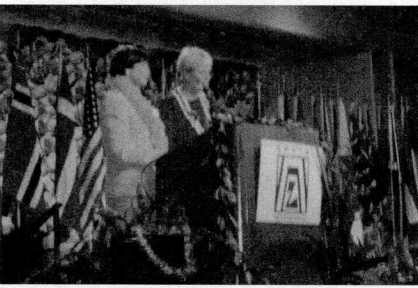
個々のプログラム—登録受付、オープニング及びクロージングセレモニー、ビジネスセッション、ワークショップ等の

内容につきましては、私共大阪Ⅱゾンタクラブもエリアミーティングの開催を控えているわけですから、今、私もここで感想やアイデアを出す方が良いのかも知れませんが、それは又の機会に譲ることにし、今回、私はイベントを遂行している上で非常に重要と思われるポイントをハワイの世界大会より学ぶことができましたので、それを記したいと思います。それは今回のコンベンション運営からも感銘を受けたことですが、このような数日間に及ぶミーティングを成功させる為にはいくつかのポイントがあるということです。

- ①プログラムの企画と運営が単純・明快なこと。これに関してはこのハワイ大会は運営上のマニュアルの不徹底があり、問題があると感じました。
- ②集中力を要するメニュー—ビジネスセッション、ワークショップetc. レクリエーション・メニュー—パーティ、展示、即売etc. のコンビネーション。つまり、メリハリ。これに関してのセンスはハワイ大会より学ぶところが多々ありました。
- ③すべてのプログラムが単なるパフォーマンスに流れてしまうことなく、言葉の上でも、視覚、聴覚は言うに及ばず、五感（官）に訴えるプロパガンダに結実するよう、より明確な目的と求心力を持つこと。

—これがムズカシイ!! ハワイ大会でも、言葉で説得力を持

つ人、存在感と視覚的抱擁力で人を引きつける人、他いろいろあり非常に興味深いものがありました。我ゾンタクラブの切り札は何になるのか楽しみです。何だか抽象的なお話しになりましたが、私個人としては、今回いろんなゾンタ・クラブのキー・パーソンズにお会いでき大へん楽しかったです。特に、今回のプレジデントのVal Sarahさん—オープニング・セレモニーのあと、彼女もファンである



ズにお会いでき大へん楽しかったです。特に、今回のプレジデントのVal Sarahさん—オープニング・セレモニーのあと、彼女もファンである

Luciano Pavarotti (L. パヴァロッチェ) の話して盛りあげられました。

そしてDistrict26の次期ガバナーY. sook Leeさん—5月のエリアミーティングで会うのを楽しみにしていますとのことでした。

同じく16地区ガバナーのJan Bowmanさん—彼女は偶然バスの中で私の隣に座られ、「私は16地区のガバナーで・・・」と自己紹介。無知な私は西副会長に「ガバナーというのはかなり偉い方？」と質問し、響きを買ってしまいました。バスから降りたあと、私たち一同と歓談しました。その他、シスター・クラブとのランチやディナー等、心ゆくまで、ゾンタ・コンベンションを楽しみました。

## ロバート議事法について

(1) ロバート議事法 (Robert's Rules of Order) は、1876年、米国陸軍のヘンリーロバート将軍によって作成された会議運営のルールであり、公平と平等を基本理念としています。ゾンタは勿論、国連など世界で標準的な議事法典として採用されています。このルールを十分理解した上で、その精神を踏まえて会議の運営が活性化されることが最も重要であると思います。

(2) ロバート議事法の原則について

(a) 4つの権利

・多数者の権利 (多数決) ・少数者の権利セカンドがあれば動議として採用される。少数者の権利を侵害する動議については議決要件を厳しくする。・個人の権利 会議において個人攻撃、プライバシーの侵害は許されない。・不在者の権利 (委任状制度)

(b) 審議の原則

・一時一件の原則 一時に一つの議題を検討すること。例えば、時間、場所、方法を一度に討論し決議しない。・一事不再議の原則 一度決定した議題は、再度審議できない。但し、再審議を必要とする特別の事情ある場合は、手続を踏んで再審議可能となる。・定足数の原則・多数決の原則

(c) 発言の際は「動議」「意見」「質問」を区別する。

(3) 動議の種類、優先関係について

動議とは会議で意思決定してもらうときに提出する議案の正式提出。動議は優先動議、付帯動議、補助動議、本動議の順で優先関係がある。

(a) 優先動議

・緊急かつ重要な事項に関係する動議・他のあらゆる動議グループに優先する。

(b) 付帯動議

・他の検討中の動議から生ずる手続問題を取り扱う。・付帯動議の多くは討議が許されず、提出されたら直ちに表決しなければなりません。

(c) 補助動議

・他の動議を取り扱ったり処理するのを助ける動議

(d) 本動議 (主動議)

・会議に議事を提出する動議・他の動議が検討中でないときにのみ提出できる。

(4) セカンド (second=支持) について

## 久岡 眞佐代



・当該動議の提案者以外の者が当該動議を取り上げて検討することに賛成する意思表示をいう。・1名必要 (独善的な動議でないことを保証する) ・セカンドしても動議に賛成する必要はない。

(5) 動議採択の流れについて

動議提出→セカンド→採択するかどうかについての採決→採決→討論→動議について採決

(6) 動議の具体例について

<優先動議>

①会合時間決定の動議 「この会議が延会され、明日午後2時に当会議室で再開されることを動議します」

②休会 (休憩) の動議 「この会議が20分間休会することを動議します」

③議事日程変更 「C案の審議をB案のあとに行うよう動議します」「本日の審議は9時閉会ですが、審議が尽くされていません。20分間の時間延長を動議します」

<補助動議>

④棚上げ動議 「この件は資料も不足しているので情勢を見極めるため、一時棚上げすることを動議します」優先動議、付帯動議は棚上げできない。

⑤採決要求 「討論を打ち切って採決することを動議します」

⑥制限付討議 「時間が無いので発言は5人、各自2分以内にすよう求めます」

⑦一定時まで延期 「この件については、来月の例会に審議事項として提出することを動議します」

⑧修正動議 原動議に対し変更を加えようとするものを言う。採決は、後に出された修正案から順番に審議する。Aという動議に対しBという修正案が提出され、その後Cという修正案が提出されたとすると、C, B, Aの順番に採決し、そのうちの1つの動議が可決されると、その後の採決は行われぬ。

<本動議 (主動議) >

⑨一般議事 通常の議題となりうる議事を提出する動議

⑩審議再開 「先ほどの未決動議の再開を動議します」

<付帯動議>

⑪動議は、議長の取り上げ宣言により会議全体の所有となり、取り下げには会議全体の承認が必要となる。

⑫議長決定に対する異議申立て 「ただいまの議長決定は間違っていると思いますので、異議を申し立てます」

「乗り物酔いと宇宙酔いの熱い関係—NASAでの実験に参加して」を聞いて

鈴鹿 有子



講師は聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教授の肥塚 泉先生で、日本で今一番忙しい耳鼻科教授です。

今回はスペースシャトルの話ビデオとともに紹介され、打ち上げの際の爆音と閃光の渦の中に始まり、われわれも少し飛行士になった気分でもより身近にわかりやすく宇宙の話の聞きました。耳鼻科の病気というと中耳炎やアレルギー性鼻炎をまず考えてしまいますが、平衡覚（バランス）という大事な感覚も扱っています。それが崩れると『めまい』という症状が起きます。めまいで困るのは、耳が障害された人だけでなく、遠い星のかなたで仕事をする人、つまり宇宙飛行士にとっても最大の敵なのです。これを克服するためにも、中耳機能解明のためにも平衡の研究はNASAを中心にたいへん進んでいます。

そんな所で肥塚 泉先生は平成7年から2年間宇宙開発事業団（NASDA）の招聘開発部員をされました。先生は大阪生まれ大阪育ちで聖マリアンナ医科大学卒業後、大阪大学医学部耳鼻咽喉科で研修をつまみ、米国ピッツバーグ大学へ留学後、NASAの研究に従事されました。その結果は向井千秋さんが心地よく宇宙で活躍できたということにもつながりました。

スペースシャトルの話に戻りますと、宇宙開発で米ソが頭脳を競った昔があります。1961年8月ガガーリン少佐の乗ったボストーク1号で火蓋がきられ、初めて人間が大気圏を脱出しました。ボストーク2号のチトフ少佐で宇宙酔いが紹介され、チトフエピソードとして一部では興味の対象となりました。初めてのジェミニは二人乗り、アポロは三人乗りでした。現在のスペースシャトルは市バスほどの大きさです。アポロ13号は映画化されて、われわれにもだんだん身近なストーリーになってきました。しかしその裏では1968年のアポロ8号、9号で宇宙酔いが深刻になり、ロケットは成功しても飛

行士が宇宙では何もできない状態になりました。常に吐き気があり、振り向くと吐いてしまい、それが浮かんでいるので、“火を吹くゴジラ”のようだそうです。よく考えてみますと昔に比べロケットが大きくなればなるほど宇宙酔いは増えているのです。じゅうぶん身体を動かせるようになり、機内での活動ができるようになってからです。原因説はいろいろありますが、体液移動説が有力で、重力を欠くため体液が上昇し脳循環が障害されるからで、そこに体動が加わるとますます脳が混乱し、めまい、吐き気症状が出現します。それと同時に宇宙では顔が大きく膨張するらしく、格好の良いことばかりではありません。なぜ彼等だけが宇宙に行けるのかの根底には個人の技術、経験はもちろんのこと、とんでもないタフガイで、かつ死んでも宇宙に行きたいという気持ちの持ち主であることが必要らしいです。印象的なのは地上との交信の為には宇宙酔いの中、常に笑顔を作りつづけて、着陸の際には最高の笑顔を見せるという努力でした。ワインでほろ酔いはいいですが、宇宙酔いはちょっとね・・・



2000年11月2日例会

卓話 島本郁子先生

「性暴力の背景と被害者対策」

久岡 眞佐代



島本先生は、産婦人科医師（元奈良県立医科大学教授）、奈良文化女子短期大学教授のお仕事のほかに、奈良県性被害者専門部会の会長として性犯罪の解決に向けて成果を上げておられ、その経験から次のとおりのお話をいただきました。

女性に対する「性的暴力」の統計調査は、被害者が告訴しないため潜在化し実態がつかみにくい面があるが、1998年の被害届出件数は、強姦（レイプ）1873件、強制わいせつ4251件であり、1994年から1998年までの5年間で20%の増加が認められる。被害の特徴は、力の弱い年少者、高齢者に被害が多く発生し、強姦の加害者は顔見知り87.7%強制わいせつは見知らぬ人55.7%である。被害者のケアとしては、被害発生後は医師に受診して身体的傷害（妊娠、性感染症、骨折等）に対する緊急処置を受けること、直後の急性と慢性的なPTSD（心的外傷後ストレス傷害）に陥ることが多いのでカウンセリングと回復するまでの施設（シェルターの充実など）が必要である。性被害防止対策としては、女性捜査官を専従

させること、産婦人科医に研修させること、各専門分野（警察、医師、弁護士、カウンセリングアドバイザー等）のサポート体制を作ることが重要である。

私自身も弁護士業務の中で、ヤクザまがいの相手方男性から「女ではダメだ、男弁護士を出せ」と言われて、せめて空手か柔道でも身につけておけばよかったと悔しい思いをしたことがあります。「女性にもすきがあった」、「本気で抵抗すれば逃げられた」とは許し難い偏見です。島本先生の話でも、女性は殺されるという恐怖心から抵抗しないケースもあるとのこと。性暴力は、セクハラ、DV（家庭内暴力）、児童虐待、ストーカー被害と同じく、力の弱者に対する重大な人権侵害です。刑法の強姦罪、強制わいせつ罪、児童虐待防止法（本年11月20日施行）により刑事事件として厳重に処罰されるよう、今後の警察の運用に注目したいと思います。



飛鳥には初期万葉歌の持つ素朴で優しい、そして深く懸命に生きていた古代の人達の喜びと悲しみが詰まった景色がある。春、菜の花が咲く頃になると自然に奈良への旅に出たくなるのは、そんな古代の人々の呼びかけではないでしょうか、レンゲ咲く飛鳥路は実にのどかである。穏やかな笑みを浮かべた素朴な土地の人達と、地図を片手の旅人がにこやかに挨拶を交わす。遠く万葉の時代、この地に激しい政権争いがあったことなど、およそ想像もつかない。

飛鳥は五世紀から七世紀にかけて都がおかれ・唐や朝鮮半島の三国、そして統一新羅の爛熟した仏教文化が押し寄せた。その結果、飛鳥は古代日本の政治・経済・文化の中心地として栄え、律令国家が成立した。やがて都は藤原京から平城京に移り、古都となった飛鳥は、過去の栄光ともども由緒すら忘れられて穏やかな田園風景と伝承の世界となってしまった。

私は、そんななつかしい、穏やかな田園風景を見ながら、足の向くまま、気の向くまま、気の合った仲間とゆっくりと古代の人々のありし日を心に描きながら、一日ぶらぶらと歩くことが大好きである。日頃、都会の雑踏の中にあり、めまぐるしい日々を送っている者にとって、これ程ありがたい地はない。

「橿原神宮前駅」の東改札口を出てまっすぐ歩くと10分で孝元天皇陵の濠である剣池に出る。池沿いに進むと分岐点に「左明日香」と示されている。そこを直進。蘇我入鹿の邸宅跡と推定される、甘樫丘(あまかしのおか)へ。やがて大和三山や多武峰(とうのみね)を望み、眼下に飛鳥古京を一望する頂上に立った。

一采女の袖吹きかへす明日香風  
都を遠み いたづらに吹く一  
志貴の皇子(しきのみこ) <万葉集歌>

丘を降りて右へ進み飛鳥川を越える、農道を歩くと入鹿の首塚が右手に見え、さらに奥には飛鳥寺が立っている。さらに歩を進め、蘇我馬子墓と推定される石舞台へ・・・。

石の謎に思いを馳せながら歩いていくと「飛鳥駅」はすぐそこ。二十一世紀の春にも又、元気で奈良の地を訪れる事が出来る事を願っている。



9月29日

岡山トレーニングセミナーに参加して

幡山 玲子



三宅エリアディレクター就任後初めてのトレーニングセミナーが2000年9月29日(金)岡山国際ホテルで行われた。我がクラブからは川村会長、西副会長、久岡理事、牛田会計と書記の私が参加した。

午前中は、Yun-sook Leeガバナーの「2000-2002年度26地区の目標」と題する講演(ワークショップ1)と、クラブ会長との質疑応答、会計報告が行われ、午後は、「会長の役割分担と責務」と題する今泉敦子副ガバナーの講演(ワークショップ2)と、地区役員をパネラーに、「地区委員会の方針と実施要領」と題するワークショップ3が行われた。Leeガバナーは地域の目標として、2年間で10%の会員増強を挙げられた。会員資格を満たす女性を見つけ、コンタクトをとってソムクラブとして新しいクラブを創ること。少なくとも1エリアで1年間に1クラブを設立すること。クラブ会員については職業構成を見直し、また地図を開いて会員の居住地等の地域的空白がないか調べる。そして入会してもらいたい人、会員にふさわしい人に対して、勧誘から入会式、さらに入会から1年間程度面倒を見る会員を決めておき、新入会員へのオリエンテーションを継続して行うことの必要性等を説かれた。クラブ会長との質疑応答では、クラブが抱える切実な問題や悩みについて各クラブから熱心な質問や意見が出された。会員の拡大方法に関する質問には、会員候補者の人格をみきわめ、適材適所に配置すること。若い人の入会を促進するため

に、ゲストとして例会にまねき、年齢差によるギャップを埋める努力をすること、奉仕の形式・内容については、資金の獲得か、PRかその目的を明確にもち、地域性を考慮して新しいことに取り組むこと。その場合、各クラブの会報に掲載された奉仕活動を参考にし、イベントの講師等についてはゾントのネットワークを通じて人材を推薦し合う。会員の活動状況については、実働できる人間が少ないこと、現役メンバーが仕事をもっているため、例会の出席率が悪いこと等の悩み、メーキャップの申し合わせの内容や、過去からの申し合わせ事項の整理公開を求める意見等が出された。時間切れで全てのクラブとの質疑応答はできなかったが、クラブの抱える悩み問題点を直に聞くことができ、その解決方法が差し示されるこのような機会は有意義である。午後からの今泉副ガバナーの講演ではクラブのIT化の促進を呼びかけられた。最後に横浜地区大会の会計問題について、特別委員会が設置されたこと、手続き、立替金支払い規約について草案を練り、いずれも5月エリアミーティングで議題に取り上げられる予定であることが報告された。岡山ゾントクラブ会員の皆様のご尽力でセミナーの運営は時間どおりにおこなわれ、また、そこかしこに細やかなおもてなしの心遣いが感じられた会議であった。心よりお礼申し上げたい。

## 甲田 悦子



本年7月より道風様（大阪I ゾンタクラブ）のご紹介で入会させていただきました。甲田悦子でございます。最初はどんな会か戸惑いもありましたが、何回か出席させていただくうちに、会員の皆様方の温かいお言葉かけのお陰で今ではリラックスして参加できるようになりました。第一線でご活躍のすばらしい方ばかりに囲まれて、幸せをひしひしと感じています。少し私の紹介をさせていただきます。

私の両親は、父が耳鼻咽喉科の医師で、母は薬剤師です。このような両親の間で生まれ、2人の弟と共に元気に育てられました。かえるの子はかえるで、私も、薬学部を卒業して結局、親の後を継いで現在の仕事をしています。主人も歯科医院を開業しております。

現在の仕事は6年程前に週に1回だけ母のお手伝いという形で始まりましたが、子育て（ひとり娘）から解放されたことと、母が引退したということが重なって、2年程前から薬局の仕事をまかされてしまうことになりました。まさか薬剤士の仕事を毎日す

るとは思いもよりませんでした。意外すんわりと入ることができ、毎日生き生きと頑張っております。

又医薬分業も進み、患者さんの方々に「明るく、ていねいに、親切に」をモットーに、少しでもお役に立てればと思っております。薬剤師会の会計のお仕事や、月1回の休日診療、特別養護老人ホームの投薬と、多忙な毎日を送っております。

私は幸いたくさんの友人に恵まれ、休日には、一緒にお芝居を見たり、食事をしながら、あれやこれやおしゃべりして楽しんでおります。いつも明るく、あまりくよくよせず、結構元気で人並み以上によくしゃべることが、私の特徴です。ゾンタクラブにも慣れてまいりましたら、おしゃべりし過ぎるかもしれませんが、お許しください。加えて生まれてから、ずっと、のんびり過ごしてまいりましたので、世間知らずで、社会人として未熟な私ですが、今後共、どうぞよろしくお導きいただきますよう、お願いいたします。

## 武内 洋子



以前から、会員の金沢医科大学の鈴鹿先生より、大阪II ゾンタクラブへのお誘いを受けておりましたが、私の様な者が、となかなか踏み切りがつきませんでした。しかし、今春、次男が医師国家試験に受かり、研修医という、半人前の立場ながら、私の元を巣立ってまいりました。

主人が55才という若さで、あの世に召されて、5年目をむかえようとしております。学生でした二人の子や高齢で寝たきりでした主人の父をかかえ、それこそ死にもものぐるいでやってまいりました。

その子供たちも、一応独立し、義父も昨年見送り、私もここで、自分の生活を見つめ直す時だと思ひ、入会を決意させて頂きました。

今まで専業主婦で、外にもあまり出た事のない私でしたので、会長の川村先生と中塚様の面接では、受験期以来の胃の痛みを覚

え、付き添って下さった友人の楠本さんの『気負わず、無理せず、リラックス』とのアドバイスには、とても感謝いたしました。11月の定例会にも、ドキドキしながら、参加させていただきましたが、ピーンと張りつめた空気の中にも、心温かい先生方のお人柄に触れる事が出来、講演会も含めて、とても楽しい時を過ごさせていただきました。私はテナントビル・モータープール経営、即ち、サービス業という経済の底辺の仕事をさせていただいております。

日々、お客様の直の声をお聞きし、今、大阪経済の大変さを痛感致しております。今までは、自分の周りしか見聞きして来ませんでしたが、21世紀はゾンタクラブという、すばらしい場をお借りし、諸先生方のご指導のもと、自身も成長していきたいと切に願っております。どうぞ宜しく願ひいたします。

## 編集後記

21世紀に入って初めての広報誌発行となりました。財政危機、景気低迷、青少年の凶悪犯罪増加など暗い世相の中での新世紀幕明けとなりましたが、我ゾンタクラブはどんな世の中にあっても一条の光を放ち続けることのできる存在でありたいものです。会員の皆さま方の叡智と努力、体力を大いに期待します。